

磐梯朝日国立公園

数百万年にもわたる火山活動や地殻変動により、磐梯朝日国立公園を構成する山脈、湖、湿地が形成されてきました。福島県、新潟県、山形県にまたがる公園で、地質学的、植物学的、精神的に重要な多くの地域が含まれています。これらには、磐梯山近くにある湖や湖沼、西吾妻山の針葉樹林、出羽三山（霊山）が含まれます。

公園の見どころ

磐梯山（1,816 m）の度重なる噴火により、磐梯吾妻・猪苗代地域の独特な地形が作り出されました。磐梯山の北側斜面は、火山活動により形成された湖や湿地が裏磐梯を作り出しています。磐梯山の南側には、日本で4番目に大きな湖である猪苗代湖があります。この湖は、およそ5万年前に起こった噴火によりできたものです。

山形県にある月山（1,984m）、羽黒山（414m）、湯殿山（1,500m）の三つの山峰は、総称して出羽三山と呼ばれる聖地であり、1,400年以上にわたり修験者の巡礼の地となっています。野生の亜高山植物、色とりどりの野生の花が咲く草原、山形県と新潟県の県境に位置する朝日山の稜線沿いにある湖沼は、その麓の丘にある緑豊かな森林と比べて対照的です。

飯豊連峰には、ブナの原生林、ダケカンバ、松が広がっています。これらの森林はツキノワグマやカモシカなど大型哺乳類の生息地となっています。飯豊山（2,105 m）もまた、山岳信仰にとっての聖地となっています。

磐梯山

磐梯山は活発な成層火山です。裏磐梯エリアから見えるこの山は1888年の大噴火の結果、部分的に崩壊した山峰で有名です。この噴火により岩石なだれが起こり、裏磐梯地区の5つの集落が完全に埋まり、谷もせき止められました。これにより、五色沼など、数多くの水域が形成されました。これらの多色湖沼は、長年にわたって湖底に浸出した火山堆積物、鉱物、酸化鉄の組み合わせによって色付きました。桧原湖は谷が岩屑によってせき止められ、水で満たされて形成されました。湖の底には桧原集落の遺跡が残っています。

磐梯山ジオパーク

磐梯山ジオパークは磐梯朝日国立公園内と猪苗代湖周辺を取り囲んだ場所となっています。この場所は、その地質・地形の重要性で知られており、ここを訪れると、火山活動の破壊的な力と創造的な力の両方について考えさせられます。